

10月27日(火曜日)「形式より本質」

【新改訳 2017】

ルカ 11・42

「だが、わざわざいだ。パリサイ人。おまえたちは、はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を納めているが、公義と神への愛とはなおざりにしています。これこそしなければならぬことです。ただし、十分の一もなおざりにしてはいけません。」

ここにある十分の一のささげものは、古くアラブハムの時代から行われていました。それは、主なる神のものと信じられていたのです。そして、レビ記 27 章 30 節では、命令とされています。

この時代、パリサイ人たちはそれを厳格に守っていたようですが、その心は失われていました。「公義と神への愛」があってもこそ意味があったのに、その心を失った形式主義になってしまったため、主は彼らを厳しく責められたのです。心を行うことこそ律法の本質であり、行為はそこから生まれるべきものでした。

今日も、神への信仰と愛をなおざりにして、規則や行動を強調することはないでしょうか。それは、信仰生活を重苦しいものにしてしまいます。

～祈り～

主よ。私たちは、慣れると形式だけになる傾向があります。どうか、本質をしっかりとらえ、そこから行いが当然のこととして生まれ出るようになりますように、お助け下さい。

【学びのために】。

十分の一の奉納について、7月30日のマラキ 3・1-12、マタイ 23・23 も参照。